

来週の「売り物記事」はこれ



2019年2月1日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

クラゲに懸けた人々

山形・鶴岡市立加茂水族館の挑戦

3日(日)



日本海に面した山形県鶴岡市にある市立加茂水族館は「クラゲ水族館」として全国有数の知名度を誇ります。

約20年前には入館者数の減少に悩み、廃館寸前に追い込まれていました。しかし、さまざまなクラゲの飼育・展示に重点を置くことで人気を集め、海外からも注目を集めるまでになったのです。



地方の小さな水族館を再生させた館長や飼育員らの姿を追いました。筆者は山形支局の二村祐土朗記者です

My Way わたしの生き方 作家・上橋菜穂子さん

サラダぼうる面 4日(月)



「守り人」シリーズ最新作「風と行く者」が人気の上橋菜穂子さん＝写真＝は、今年で作家生活30年。心臓が弱く、親は「幼稚園に上がるまで生きられないかも」と心配したそうです。

父方の祖母から聞かされた九州・中国地方の口頭伝承の話が、歴史や考古学に興味を持つきっかけになりました。頭の中に火花が散って「書きたい」という感覚が来ると話す上橋さんの半生を聞きました。

伝えたい戦争の不幸と愚かさ

元NHKアナ 鈴木健二さんが著書刊行

夕刊特集ワイド 4日(月)

「紅白歌合戦」や「クイズ面白ゼミナール」の司会で1980年代に人気を博した元NHKアナウンサーの鈴木健二さん(90)が著書を出しました。

タイトルはずばり「昭和からの遺言」(幻冬舎)。16歳のときに東京・両国で大空襲＝写真＝を経験した鈴木さん。「人生で最悪の日だった」と振り返ります。

平成が終わろうとする今、昭和の名物アナウンサーはどんな言葉を残したいのでしょうか。じっくり聞いてきました。



食 フード

温めて甘く 香りもさわやか かんきつ類丸ごとレシピ

くらしナビ面 5日(火)

冬はミカンやユズ、キンカンをはじめ、かんきつ類がおいしい季節です。そのまま食べるのもいいのですが、たまには意外な使い方に挑戦してみたい方が多いでしょう。



鶏肉団子に入れたミカン鍋や、キンカン、トマト、カブのマリネサラダ、ユズのクリームパスタ——。かんきつ類を丸ごと味わうレシピを、料理研究家の尾田衣子さんに教えてもらいました。

がんの補完代替医療

医療・福祉面 6日(水)

がんを正しく知るための連載「がん大国白書 その日に備えて」の第5回は「がんの補完代替医療」を取り上げます。

通常の医療に含まれない食事療法、健康食品やサプリメント、運動療法などを補完代替医療と呼びます。日本では食事などを通じてがんを治そうという考え方が強いとされますが、頼り過ぎる弊害が指摘されています。

専門家は標準治療との組み合わせた補助的な利用を呼びかけています。



山は博物館⑪ 三原山

環境面 6日(水)



太平洋戦争末期、伊豆大島では米軍の攻撃に備えて日本軍が陣地構築を急ぎました。戦闘の足手まといになる高齢者や子どもは本土疎開。三原山(758m)の山中には無数のトーチカや機関銃の台座が作られ、駐留兵は島の人口とほぼ同じ1万人に達したといわれます。

当時子どもだった島民が、ひもじかった時代を振り返ります。

親ありて ソフトボール選手・長崎望未さんの母

くらしナビ面 6日(水)、7日(木)

昨年、ソフトボール日本リーグ決勝でトヨタ自動車に2年ぶりの優勝をもたらした長崎望未(のぞみ)選手(26)＝写真左＝は、小3からソフトボールを始めました。

小5の時、ある事情から断念を促した母の喜代美さん(56)＝写真右＝に「お母さん、いつも『夢を諦めたらいかん』って言うやんか」「のんちゃんね、ソフトボール選手になるんが夢だったんよ」と返したそうです。

母娘のドラマをつづります。



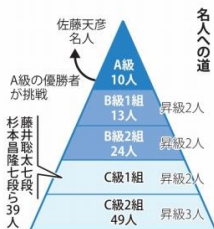
藤井七段、杉本七段、順位戦同時昇級か

社会面 6日(水)

将棋の名人への挑戦者を決める順位戦で、藤井聡太七段と師匠の杉本昌隆七段が、そろって上位の級に昇格するチャンスが巡ってきました。師弟同時昇級となれば、32期ぶり2回目の快挙です。

順位戦にはA級を頂点に5階級あり、2人は下から2番目、C級1組に属しています。これまで8戦全勝と39人中のトップを走り、5日の対局で2人とも勝てば、一つ上のB級2組への同時昇級が決まります。藤井は近藤誠也五段、杉本は船江恒平六段が相手です。

名人挑戦までは長い道のり。同時に一步先へ進むことができるでしょうか。対局は大阪で、午前10時から。



※人数は77期順位戦に基づく